

第1章

アクションプラン策定の主旨

第1章 アクションプラン策定の主旨

1. 観光アクションプラン策定の背景

多くの自治体で、観光振興・地方創生が進められている中、今後の外部環境を鑑みると、北茨城市においても、観光を活用したまちづくりが求められています。少子高齢化が進み、定住人口が減少する中、観光を活用し交流客を増加させることは地域の繁栄に欠かせない要素となっているのです。

2019年は茨城県で「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会」が開催されるほか、全国的にも世界的イベントである「ラグビーワールドカップ日本大会」が開催されます。そして、来る2020年は「東京オリンピック・パラリンピック」が開催され、多くの観光客が世界中から日本を訪れることとなります。

このような外部環境のチャンスを的確にとらえ、観光を活用し地域内のあらゆる産業を活性化するために、北茨城市は2018年度に「北茨城市観光資源調査協議会」を設置し、地域資源の調査、外部環境の調査を実施しました。そのうえで、2019年度から2023年度までの5ヵ年を期間とした「北茨城市観光アクションプラン」をまとめることとしました。

このアクションプランは観光を活用して北茨城市の産業を元気にすることを対外的・対内的に示したものであると同時に、わかりやすく行動しやすいアクション項目を策定したものです。誰が、何を、いつまでに実施するかが明示されているため、活動の進行状況を把握、確認することが容易になっています。

2. 観光アクションプラン策定の方法

観光アクションプランの策定においては、まず現状を分析しました。様々なデータを活用したほか、株式会社 JTB 総合研究所に依頼して北茨城市の観光の現状を独自に調査・分析し、定量的なデータを取得しました。これらのデータを活用し、外部環境及び内部環境の分析を実施し、北茨城市における観光の現状を正しく理解することに努めました。

また、観光資源調査協議会、広く北茨城市民の参加を集ったワークショップ（＝意見交換会及び勉強会）を開催し、観光に関する現状・課題について、市民からの広い意見をくみ取りました。

このように定量的かつ定性的な情報^{*1}を分析し、北茨城市における課題を抽出しました。そのうえで、北茨城市の将来あるべき姿を市民と議論し、観光ビジョンとして策定しました。

このビジョンのもと、設定した課題をどのように解決するかを先の各種委員会、ワークショップ、大学教員などの専門家のアドバイスを受けながら、アクション項目として 5 項目を設定し、各アクション項目に複数の具体的アクションを設けました。このように、データや議論を通して、北茨城市の現状を正しく把握し、目指すべきビジョンを共有した上で、そのビジョンに向けた各人・各主体がどのように具体的なアクションを実施すべきかを本計画にまとめました。

^{*1} 定量的な情報：茨城県「観光客動態調査」や JTB 総合研究所による各種調査など、人数や割合といった数値や量で表される調査結果。一方、定性的な情報とは、観光資源調査協議会やワークショップなどで広く市民から得られた数量や割合では表現できない質的データによる調査結果。

3. 観光アクションプラン策定の目的

本観光アクションプランの策定の目的は、「北茨城市において、観光を活用したまちづくりを進めるために、各主体が短期、中期・長期で、具体的に何を実施すべきかを定めること」です。現状の観光振興基本計画では様々な施策が講じられていますが、対象としている範囲が広いことが難点でした。そこで、今回は実践的かつ効果が期待される具体的なアクションプランを 50 項目以内に絞

り込み、より実行しやすい形としました。このことにより、限られたリソースをどの項目に充てるかが明確にされ、実施すべきことの集中と選択を図ることが可能となります。観光産業に対して追い風が吹く中、確実な成果に結びつけるために、実施項目を絞り込むことを重視したアクションプランになっています。

4. 計画期間

本アクションプランは2019年度から2023年度までの5カ年を計画期間としています。中間年度にあたる2021年度には計画の進行状況を確認することとし、その時勢や社会環境の変化に応じて本計画の見直しを行うことも想定しています。

アクションプランの各項目は、短期（1年以内に実施予定）、中・長期（2年以上）の2つの期間に分けて設定しました。

なお、本計画は先行している「北茨城市観光振興基本計画」とは、整合を図ったものとなっています。

図表 1：計画期間

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
短期	中期・長期			
				
				